言者ムハンマド （8/12）： バドルの い

：

明:この 事の 明： この人 史上最も重大な いの一つは、アラビア半 の政治バランスを えました。

目: 事 言者ムハンマド彼の

より： IslamReligion.com

日06 Dec 2009

集日 21 Oct 2010

バドルの い

ムスリムによるある 征において、シリアへと向かっていたクライシュ族の 商は彼らの を逃れ、ムスリムたちはその 路において待ち えていました。ムスリム 察 の一部がアブ スフヤ ン（クライシュ族 の首 の一人）の率いる 商を すると、彼らは急いで 言者にその 模を知らせに行きました。もしもこの 商を捕らえることが出来たのであれば、それは ムスリムたちに多大なる 的利益をもたらし、マッカ社会全体への打 を与えることが望 めたのです。ムスリム 察 は、 商がバドルの水 で停留することを突き止め、ムスリムた ちは急 の布 を敷きました。

この知らせがマッカに向けて南下中だったアブ スフヤ ンの耳に入ると、すぐさま彼は マッカへ に 抗するための の 急出 を要 しました。そして 商を失うことによる破 的な 果を 恐れた彼らは、可能な限りの兵力を集 させ、直ちに出 させました。しかしマッカから の はバドルへの道中、アブ スフヤ ンの 商が海岸沿いの 路へと 更したことにより、ムス リム の手を逃れることに成功したという知らせを受け取ります。それにも わらず 1,000 人のマッカ はムスリムへ して教 を与えるため、つまり今 の 商への を思い留まらせるた め、バドルへの に固 しました。

ムスリム がマッカ の　を知った 、彼らは 抗手段として大胆な作 がとられなければならないことを 信していました。もしもムスリムたちが彼らをバドルで迎え たなければ、マッカの民はあらゆる手段を尽くしてイスラ ムへの　行 を け、いずれはマディ ナへ侵攻し、家畜などの富を 威に晒したでしょう。 言者（彼に神の慈悲と祝福あれ）は　会 を き、どのような行 をとるか教友たちと し合いました。 言者はムスリムたちが同意しないことを望んではおらず、特に　の大半を占め、自分たちの 土外では わないとしたアカバの誓いにおける誓 にも わらず うことを辞さなかったマディ ナの援助者たちを、 理に いに与させたくはなかったのです。

そのような中マディ ナの援助者の中の一人、サアド ブン ムア ズは 言者への忠 とイスラムへの献身を再　しました。以下は彼が った言 です：

“神の使徒よ！我々はあなたを信じ、あなたがもたらしたものを 言し、それが真 であるとはっきり宣言します。我々はあなたに 固とした服 と 牲の誓 を びます。我々は んであなたに服 し、いかなる命令にも います。 あなたを真 とともに遣わせた神に誓って。もしあなたが我々に海に沈めと命令されるのであれば、それに 躇なく い、我々の内一人も には残らないでしょう。我々は との 峙に して私怨を抱きません。我々は　　が 富であり、格 にも定 があります。神が我々の手によって我々の勇敢さをあなたに示し、あなたを御 悦させることが出来ますように。神の御名において、どうぞ我々を　へとご先 下さい。”

援助者と移住者の双方により、このような めて い支持が 言者とイスラ ムに向けて示された 、300人余の　によってバドルへの出 が 始されました。彼らは か70 のラクダと3 の を有していただけに ぎなかったので、それらに交代で らなければなりませんでした。彼らは、 史上??????????????（区 の日）として知られるようになる日へと向かっていました。それは光と 、善と 、公正と不正との区 を意味しています。

いの日に先立ち、 言者は一 中礼 と祈 で ごしました。 いはヒジュラ 2年（西 634年）、ラマダ ン月17日に行なわれました。当 のアラブの　に い、　　始前は前哨 として双方から一人

ずつが ばれ一 打ちが行なわれました。そしてムスリム は一 打ちを全て制し、クライシュ族の重要人物が数名 されました。クライシュ族は激昂し、ムスリムの全 を誓って突しました。ムスリムたちは 略的に有利な 地を 保していたため、マッカ へ甚大な 害を与えることに成功ました。 言者はここまで彼の主に し、全ての力を尽くしてかれの助けを　していました。彼は高く 手を げ、それによって外套が彼の肩から落ちる程でした。このときに彼は、神の助けを 束された 示を受けたのです:

“?????????????????????????????????”??????? 8?9?

吉 を受けた 言者は、ムスリムへ攻 に出るよう命じました。クライシュ族の大 はムスリムたちによる情 、果敢さ、信仰深さに 倒され、大 害を受けた 、逃げる他に道がありませんでした。 地には破 の待ち えたマッカ が少数取り残されていました。その中にはイスラ ムの宿 と言われたアブ　ジャハルがいました。クライシュ族は 北し、アブ　ジャハルは 刑されました。神の 束は　のものとなったのです:

“?????????????????????????”??????? ??????

人 史上、最も重要な いの一つとして げられるこの いにおいて、 死者は双方の合 でも か 80名余りでした。

新たな支配者となったアブ　スフヤ ンを するマッカは、その 果に目もくらむばかりの　を受けていました。彼はこのままでは らせないことを よりも く 心していました。一方、力　に敏感なベドウィンの 部族はこの いをきっかけにムスリム へと 斜していきました。成功は成功を呼び、イスラ ムは新たな改宗者たちをマディ ナにおいて 得していったのです。

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/index.php/jp/articles/176

著作　2006-2015 断　を禁じます。　2006 - 2023　IslamReligion.com. 断　を禁じます。